

香港日本人学校における教育相談と大埔校における特別支援教育の取組

－特別支援教室「笑顔教室」を活用した、児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援の実際－

大崎博史*・高柳杏奈**・三浦富美子**

(*国立特別支援教育総合研究所情報・支援部,**香港日本人学校小学部大埔校)

要旨：本研究所では、ここ10年来、年に1回、香港日本人学校から教育相談の要請を受け、学校を訪問し支援を実施している。香港日本人学校は、小学部香港校、大埔校、中学部の3校から成るが、本稿では、小学部大埔校に平成25(2013)年から開室されている「笑顔(シウヨン)教室」における児童への支援や学校全体としての特別支援教育に関する実際の取組について報告する。

見出し語：香港日本人学校、教育相談、特別支援教育

I. はじめに

香港日本人学校3校(小学部香港校、小学部大埔校、中学部)からの教育相談の要請に応じて、平成28(2016)年7月11日から15日までの間、香港日本人学校を訪問した。

香港日本人学校への教育相談は、当時の本研究所の教育相談部が、平成17(2007)年に小学部香港校での教育相談を実施して以来、毎年、継続的に香港日本人学校からの要請を受け、実施しているものである。

今年度の教育相談の日程は以下の通りである。

表1 香港日本人学校訪問日程

7月11日(月)	午前：羽田発，夕刻：香港着
7月12日(火)	
香港日本人学校小学部香港校	
8：35～9：20	気がかりな児童についての説明
9：30～10：15	授業参観①
10：35～11：20	授業参観②
11：30～12：15	保護者対象講演会
13：20～13：35	保護者個別相談①
13：40～13：55	保護者個別相談②
14：00～14：15	保護者個別相談③
14：30～14：45	保護者個別相談④
15：45～16：30	職員対象講演会
16：40～17：00	職員個別相談

7月13日(水)	
香港日本人学校中学部	
8：40～9：00	生徒の状況説明
9：00～11：00	授業参観
11：00～11：50	保護者個別相談①
13：10～14：00	保護者個別相談②
14：10～15：00	保護者個別相談③
15：00～15：50	保護者個別相談④
16：00～16：40	相談のまとめ
16：40～17：20	情報交換会(全職員)と職員対象講演会
7月14日(木)	
香港日本人学校小学部大埔校	
8：30～8：50	日程説明
8：50～9：20	授業参観①
9：25～10：10	授業参観②
10：30～11：15	保護者個別相談①
11：20～12：05	保護者個別相談②
13：00～13：45	保護者個別相談③
13：50～14：35	保護者個別相談④
14：40～15：25	保護者個別面談⑤
15：45～17：00	職員研修会
7月15日(金)	午後：香港発，夜：羽田着

昨年度発行の国立特別支援教育総合研究所ジャーナル第5号では、菅波・中野・小林・武富(2016)が「香港日本人学校小学部香港校における特別支援

教育の実際一個のニーズに応じた連続性のある学びの場を目指して」というテーマで、香港日本人学校小学部香港校の特別支援教育の取組について報告している。

今年度は、香港日本人学校の3校のうち、大埔校にある特別支援教室「笑容教室」の取組等について紹介する。

II. 小学部大埔校における特別支援教育に関する取組

1. 学校の概要

香港日本人学校小学部大埔校（以下、当校とする）は、本年度開校20年目を迎えた学校である。12月1日現在の児童数は438名であり、各学級25～34名程度の児童数となっている。小学部大埔校の今年度の職員構成は、文部科学省からの派遣職員14名、学校採用職員8名、国際交流ディレクター1名、イングリッシュスタッフ8名、図工イマージョンスタッフ1名の合計31名である。また、当校には国際学級を併設しており、約160名の児童が学んでいる。



写真1 香港日本人学校小学部大埔校の正門にて
(写真左：中谷扶美子校長先生)

2. 香港日本人学校教育支援委員会の概要

香港日本人学校は同じ経営理事会のもと、当校、香港校、中学部の3校から成る。そこで3校の代表による教育支援委員会を設置し、必要に応じて召集、開催している。教育支援委員会には、組織や役員、専門部会などについて定めた「香港日本人学校教育支援委員会規則」、運営や受け入れ基準などについて定めた「教育支援委員会内規」、支援教室（特別支援

教室の意味を示す。以下同じ）の設置や目的などについて定めた「支援教室の設置と運営に関する規則」がある。教育支援委員会は以下のような組織になっている。

- 香港日本人学校小学部大埔校、小学部香港校、学部各校の校長・教頭
- 香港日本人学校経営理事会担当理事
- 香港日本人学校事務長
- その他、委員会が必要と認める者

教育支援委員会の設立趣旨は、障害のある児童生徒又はあると思われる児童生徒の適切な教育措置について協議し、適切な教育支援・編入学を行うというものである。所掌としては以下の6点が挙げられる。

- 対象児童生徒に関する指導及び助言
- 対象児童生徒に関する調査及び資料の収集
- 対象児童生徒に必要な諸検査の実施
- 対象児童生徒の教育支援・教育相談及び進路指導
- 対象児童生徒の教育支援・編入学に関する関係機関とその連絡提携
- その他、委員会の目的達成に必要な事項

教育支援委員会では、小学部大埔校、小学部香港校の「支援教室利用児童」及び「配慮を要する児童」、また、中学部の「配慮を要する生徒」について情報を共有し、適切な教育措置について検討している。

さらに、障害のある児童の編入学許可についても、必要に応じて教育支援委員会の判断により決定される。

なお、「支援教室」は当校と、小学部香港校に設置し、中学部には設置していない。

3. 当校の特別支援教育の概要

当校の特別支援教育は、図1のような組織で進められている。

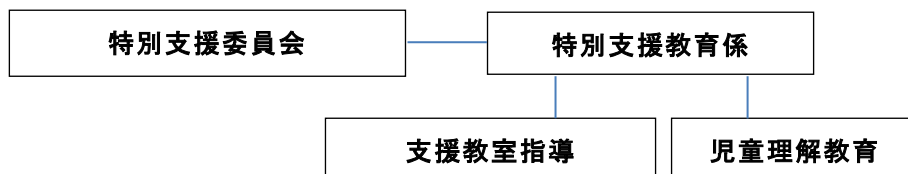


図1 大埔校特別支援教育に関する組織

特別支援委員会は校長・教頭・教務主任・学年主任・養護教諭・特別支援指導教室担当・該当担任で構成され、業務内容は次の3点である。

- 通級指導教室入級審査による適正な教育支援
- 通級指導教室の運営に関わる指導助言
- 普通学級における特に配慮を要する児童への対応指針の作成と運用

特別支援教育係は教頭・支援コーディネーターと担当1名で構成され、支援教室指導や普通学級支援だけでなく、香港校や中学部との連携、学級担任や保護者からの教育相談、幼稚園や他校からの転編入児童の教育支援相談、障害児理解教育などを行っている。1名は特別支援教育の免許を所持する海外子女教育振興財団採用教員、もう1名は現地に住む英語が堪能で、日本臨床美術協会資格認定会員、臨床美術士の免許を持つ日本人である。

当校の特別支援教育係の業務内容は下記の5点である。

- 特別支援教育計画、特別支援に関する調査協力
- 特別支援に関する研修・啓蒙・知能検査
- 児童理解会の計画・運営・情報管理
- 編入面接の企画立案・実施
- 関係機関との連絡調整

4. 当校の特別支援教育係の活動

1) 就学時検査・就学前検査

当校で就学を決定する前に、教育上特別な配慮を要する児童に対して、その実態や問題点を明らかにし、当校としてどのような方針及び方法で教育していくかを検討した上で当校児童の教育相談を行うことを目的とし、就学時検査・就学前検査を実施している。

転編入児童に対して、その学年の発達段階に応じ

たテストと各学年主任との面接を行う。

その上で、集団の中での指導が困難な児童や日本語指導が必要な児童の入学の判断を行う。また必要に応じては笑顔教室（支援教室）の入級や、日本語教室の入級を勧める。

2) 児童理解教育と児童理解会

新学期が始まりそれぞれの学級の児童の様子がわかってきた5月、11月、2月に実施している。全職員に対して、学級担任から「支援教室利用児童」「気がかりな児童」についての実態や必要な配慮事項について報告している。配慮を要する児童の中には日本語指導が必要な児童も含まれている。このように、特別な支援が必要な児童について共通理解できる場を作ることで、学校全体でそういった児童を見守る態勢を作っている。

3) 特別支援教室指導

当校には、特別支援教室「笑顔教室」があり、情緒や発達面、または、言語的に教育上特別な配慮を要する児童が利用している。

支援教育目標は、以下の3点である。

- 児童一人一人のニーズを把握し、個別・少人数での支援を行うことで心身の調和的発達を図る。
- 自立活動や各教科の補充指導を通じて、自立を図るために必要な知識、技能、態度、及び習慣を養う。学習や模擬体験、SSTなどの実践的な学習を通して、学校生活に適応できるようにする。
- 小集団や個別の学習形態を工夫しながら、体験的な学習や模擬体験、SSTなどの実践的な学習を通して、学校生活に適応できるようにする。

Ⅲ. 特別支援教室「笑顔教室」の取組

1. 「笑顔教室」での支援

1) 個別の学習支援

「笑顔教室」では、現在、5名の児童が通級しており、それぞれの児童の持つ特性に起因する教科学習の遅れを充当するための補充指導を中心とした支援を行っている。児童一人一人の特性に合わせた支援を行えるように、担任や保護者とじっくり話し合いながら支援児童の実態把握に努め、学習する内容や時数などを決定している。



写真2 具体物を使った算数の学習の様子

表2 「笑顔教室」に通う児童への支援内容

学年 性別	笑顔教室での学習教科 と時間（時間数）	児童の特性
3年 男子	算数（2）、国語（2）、 自立活動（2）	自閉傾向
4年 男子	算数（2）、自立活動 （1）	ADHD 傾向
4年 女子	算数（2）、国語（2）、 自立活動（2）	軽度の知的障 害傾向、ADHD
5年 男子	自立活動（2）	情緒不安
5年 女子	算数（2）、国語（2）、 自立活動（2）	軽度の知的障 害傾向

自閉傾向のある児童には、学習内容や進め方を明確に表示することで、不安を取り除き、先の見通しを持つことができるように配慮している。算数の学習では、数の概念や数量などを具体的にイメージさせるため、具体物を使って視覚的に分かりやすく示す支援をしている（写真2参照）。ADHD 傾向のある児童には、教室内の掲示物を最小限にし、学習に集中しやすい環境を作ることを心掛けている。また、時間の経過を視覚的に認識することで集中力を持続しやすくするように、タイマーを常に配置して学習をしている。

日本人学校の特徴の一つとして、日本語を母国語としない児童が在籍していることがあげられるが、「笑顔教室」に通級する児童においても、両親のどちらかが日本語を母国語としていないケースや、両親が仕事をしており、普段の身の回りの世話を外国人のメイドに任せているケースも多く、日常生活で日本語に接する時間が限られているという現状がある。そのような生活環境的な要因が重なり、更に国語の学習に困難さを抱える児童が多いことから、笑顔教室では単元学習と併せて正しい日本語を習得するための学習も行っている。特に漢字の定着が進まない児童には、興味や関心を高めるように粘土を使った学習を取り入れ、辺の重なりやつながりを粘土で表すことによって、漢字に対する意識づけなどを行っている（写真3参照）。「読めない」、「書けない」と言う、つまずきから苦手意識をもち、学習意欲が低下していることが多い中で、まずは「楽しく学習すること」から始め、学ぶことの楽しさを実感できるように心がけている。



写真3 粘土を使った漢字の学習の様子

2) 自立活動

「笑容教室」に通う児童には、それぞれの必要に合わせた自立活動を週1時間行っている。児童のほとんどが、学校を中心とした集団生活での対人関係において、日々様々な困難に直面しており、学習以外の面でも支援の必要性は高い。ほとんどの児童に共通してみられるのが、相手の気持ちや場の状況を理解することの困難さによるコミュニケーションの問題である。自立活動では日常生活でおこりやすい様々な問題場面を、絵カードなど使い目に見えるように提示することで、目に見えないルールや気持ちを理解しやすくし、その場面や状況にふさわしいソーシャルスキルを身に付けられるように支援をしている。(写真4参照) この様な SST の他に、臨床美術^{注1} (図2参照) という芸術療法を取り入れている(写真5参照)。この活動では五感を刺激しながら様々な作品を創作することで、心の解放や自分自身と向き合う時間を無意識的にもてるようにしている。作品の仕上がり具合ではなく、作品を作りながら自由に自己表現をしていく中で、新たな自己の発見をし、作品を作り終わった後の達成感を得ることで自己肯定感を高めるねらいがある。実際の創作過程において、どの児童もとても生き生きとした表情を見せながら自己の表現を楽しむ姿が見られる。通級指導を受けている児童は学校以外の生活の場においても、その特性が故に周囲から注意や叱責など受けることが多く、自分の行動に自信が持てずに様々な活動に対して消極的になってしまう傾向があるが、作品作りを通して自由に自己表現をしていくことで、情緒の安定をはかり、普段の生活の中でも自信を持って行動することができるようになることを目指している。

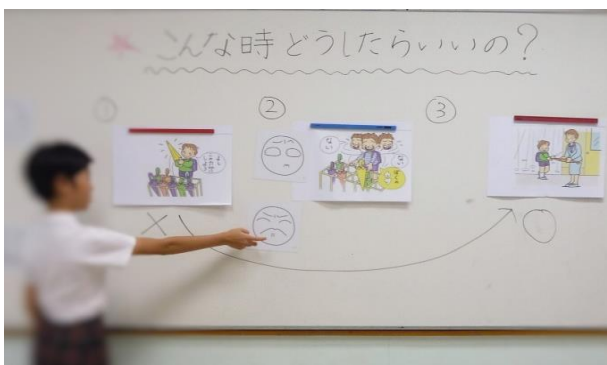


写真4 絵カードを使った SST の様子



図2 線と色を使って表現した作品



写真5 手の触覚を刺激した臨床美術での作品作り

注1：日本臨床美術協会。臨床美術とは。

<http://www.arttherapy.gr.jp/about/> (アクセス日, 2016-09-25)

2. 通常の学級での支援

現在「笑容教室」に通う児童は、それぞれ指導の時に違いがあるが、通常学級での学習の内容によっては支援担当者が学級に入り支援を行っている。学級担任と常に連携しながら、必要に応じて他の学習や校外学習などにも同行することで、対象児童の集団の中での様子を観察し、支援しながら新たな課題の発見につなげていきたい。

IV. 今回の訪問における、保護者への教育相談及び職員研修

1. 保護者個別相談

今回、香港日本人学校小学部大埔校での教育相談において、保護者からの主な相談内容は、以下のよ

うなものであった。

- ① 児童の学習面の遅れについての相談
- ② 児童の情緒面に関する相談
- ③ 帰国に伴う転校先についての相談

第一に、児童の学習面の遅れについての相談であるが、自閉傾向や知的発達に遅れのある児童が、授業についていけなくなることを心配しての相談であった。これらの相談に関しては、児童の特性を考慮しながら、日常の学習方略を考え、それを試してみること等を提案した。

第二に、児童の情緒面に関する相談であるが、些細なことで怒ったり、泣いたり、感情がコントロールできないことへの対応についての相談があった。これらの相談に関しては、安心できる場や環境を提供したり、相手の気持ちや周囲の状況を把握したりして、感情をコントロールするための方策について助言した。

第三に、帰国に伴う、転校先の特別支援教育に関する相談であった。大埔校に転校する前の学校に戻った方が良いのか、保護者の赴任先の新しい地域の学校に転校した方が良いのかとの相談であった。これらの相談に関しては、児童にとっての特別支援教育の環境はどうか、家族が離れて生活する方が良いのか等を含め、総合的なメリット、デメリット等を考慮して転校先を決めていくことを提案した。

2. 職員研修会

放課後の職員研修会では、最初に特別支援教育に関するワークショップ形式の研修を行い、支援の必要な児童についての共通理解を図っていった。(写真6参照)

次に本報告の第一著者から、インクルーシブ教育システムの推進や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行等を含めた、「特別支援教育の今日的な動向」についての話題提供をした。教員は、とても熱心に特別支援教育について研修に取り組んでいた。



写真6 教員のワークショップ形式の研修会の様子

V. おわりに

当校では、特別支援教室「笑顔教室」を活用した、児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援がなされていた。

「笑顔」(シウヨン)とは中国語で「笑顔」という意味があるそうだが、その願いの通り、障害のある子供達だけでなく、どんな子供達も、安心・安全が確保され、いつも笑顔で学ぶことができる学校づくりをさらに進めていってほしい。

付記

個人名の明記及び写真・図の掲載に当たっては、本人及び保護者の了承を得ています。

引用・参考文献等

- 平成28(2016)年度香港日本人学校大埔校学校案内.
 香港日本人学校総合ページ. <http://www.jis.edu.hk/index3.html> (アクセス日, 2016-12-01)
- 管波亜矢子・中野健・小林千紗・武富博文(2016).
 香港日本人学校小学部香港校における特別支援教育の実際一個のニーズに応じた連続性のある学びの場を目指してー. 国立特別支援教育総合研究所ジャーナル, 5, 31-37.